

◎「温泉療養」で実践テキスト

―健康づくり大学の担い手育成―民活機構―

経済産業省所管の社団法人民間活力開発機構（里敏行理事長）は、温泉療養を医学的な立場から体系化し、温泉地での健康づくり指導者らを養成する研修テキスト「温泉療養学」をまとめた。温泉療養の専門的知識とともに、地域資源を活用した特色ある温泉療法プログラムを開発・実践するためのノウハウを紹介。同機構は全国の温泉地の中から毎年幾つか適地を選び、温泉療法による健康増進と地域活性化を実践する「健康づくり大学」の取り組みを今年度から加速させており、このテキストを活用しながら大学の担い手育成などに力を入れることにしている。

健康づくり大学では、民活機構と自治体とが協力し、温泉地の泉質、自然環境、食材、運動施設、文化環境といった地域資源を最大限に使って、入浴と食事、運動、環境の四療法を組み合わせたプログラムを開発・実践する。プログラムは医者ら専門家と連携、高血圧や糖尿病、肥満などの対応コースごとに作り、大学参加者は滞在期間中、同機構から認定を受けた温泉療法アドバイザーらの指導を受けながら療養するが、地域資源を十分活用したプログラムの事例はまだ少ない。また温泉療法アドバイザーには、四療法をはじめとする医学的な知識や、地域資源の活用、地域活性化効果までを幅広く見渡して地域をコーディネートする能力が求められるが、そうした人材も不足している。テキストはこうした実情に対応しようとして成した。

B5判、全六百五十三頁で、医師や大学教授ら温泉療法関連の分野に詳しい三十二人が執筆。これまで学問的にはばらばらに扱われてきた四療法を「温泉療法学」として体系化するとともに、温泉と地域の観光・保健政策とのかわりなどの関連分野を網羅しており、同大学を実践する温泉地で活躍するアドバイザー育成などに活用する。

テキストにはさらに、二〇〇五年度に同大学をモデル実施した山間部の新潟県妙高市と、臨海部の同県柏崎市での取り組みを「実践編」として収録。担い手育成や地域資源の状況・活用方法、プログラムの例をはじめ、地域条件の異なる両市での実践例を掲載することにより、「どのようなサービスを提供したらよいか」など他地域が取り進む際の参考にももらう。

同機構は今後、温泉療法に携わる医師や、食事・温泉などを提供する宿泊施設の関係者らに対し、このテキストの普及を図る。地域ぐるみで温泉療法への知識を深めることにより、高齢者から若者まで幅広い層の健康づくりに役立ち、より高い満足度が得られるような地域主導の実践を促す。

今回のテキストは専門的な内容を含むため、一般向けにより平易でコンパクトに解説した百五十一―二百頁程度のテキストも作る。同機構発行の「温泉療養の手帖」を来年一月をめどに改訂し、その内容を盛り込む。

また、同機構は九月、健康づくり大学の〇六年度実施地域である新潟県新発田市の月岡温泉で、地域の全旅館の関係者を集め、テキストを教材として温泉療養学や、同大学の実施に向けての受け入れ態勢を実践的に学ぶ研修会を開催。医師らテキスト作成にかかわった専門家を講師として派遣する。研修会には地域の高齢者らも招き、実際にプログラムを体験してもらう。

来年一月には同市が全国から参加者を募り、一―三泊程度の日程で手軽に参加できる同大学「短期キャンプス」の開講を予定している。研修会ではそれに向けてアンケートなども実施し、より良いサービスの提供につなげていく。

テキストや健康づくり大学などに関する問い合わせは、同機構（電話03―3543―8777）まで。